

よく分かる性感染症（3）：軽視できぬコンドーム

一 病原体「ネットワーク」

（中国新聞 12面 健康・医療 H19年2月7日水曜）

Q 彼以外とのセックスはありません。それなのに性感染症と診断されるなんて。裏切られた気持ちでいっぱいです。（20歳、大学生）

A 不特定多数の人とのセックスが危険であることは言うまでもありませんが、セックス相手が固定されていても安全とは限りません。過去1年間に性感染症の診断を受けた大学生に性交相手の数を尋ねたところ、女子大生の約6割が1人と答えましたが、男子からの回答は複数、という厚生労働省科学研究班からの報告もあります。「性感染症ネットワーク」という言葉が注目を集めています。「カレシの元カノの元カレを、知っていますか」という広告のフレーズにあるように、性器を結合する瞬間は、相手がかかって付き合った人の痕跡があなたのカラダに入る瞬間なのです。痕跡とはクラミジアなどの病原体のことです。その病原体がどこからきたのかたどりたどっていったら、驚くべき人数を数えあげることになります。水疱ができる性器ヘルペス、イボを特徴とする尖圭コンジローマ、陰毛に卵が見つかる毛ジラミなどは、主として外性器に病変が出る性感染症であるため、仮にコンドームを使用したとしても100パーセントの予防は不可能です。しかし、一般にはコンドームを使わないで感染する確率を1とす

ると、「時々使う」0.5、「常に使う」0.2となり、コンドームの使用を軽視できない結果となっています。したがって、あなただけでもコンドームを使えば、性感染症ネットワークはその時点で絶たれ、新たな感染の拡大を阻止することができます。一方、「粘膜の存在するところ性感染症あり」の認識が必要です。粘膜とはすなわち目、鼻、のど、膣、尿道、肛門などです。特に、のどにも感染の危険性があることを知ってください。クラミジアなど性感染症の感染率を押し上げているのが、フェラチオなど口で性器を刺激する行為です。性器がクラミジアに感染している患者で、咽頭からもクラミジアが検出された人は、女性で約10%、男性で約4%という報告もあります。性行動が多様化している今日。自分のカラダは自分で守るという強い意志が今こそ求められています。（日本家族計画協会クリニック所長 北村邦夫）